

女性を装うことと私秘性

－ パートタイム女装者の体験世界 －

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
臨床心理学領域
岡田 紗弥香

「女装」とは、身体的な男性が女性の服飾（衣服・装飾品・髪形・化粧）を総体的に身にまとうことである。本研究の目的は、時間と場所を限定して女装を行う「パートタイム女装者」に着目し、身体的性別と性自認が男性であるパートタイム女装者が女装行為に対して感じている意味を明らかにすることである。女装の経験を持つ5名を対象に半構造化面接を実施し分析を行った。結果は以下の通りである。女装行為のスタイル（服装、時間・場所、共有する相手）と意味づけとの関連が見出された。パートタイム女装者は女装行為を通じて、自分の女装姿を主に自分だけが見る〈自分－自分〉の関係性では「拘束感」と視覚的変化という身体感覚を得ており、自分の女装姿が他者に見られる〈自分－他者〉の関係性では「緊張感」と他者からの反応を得ており、これらの感覚から「普段の自分とは異なる〈女性になった〉感覚」が生じていることが示唆された。女装時の繊細な体験を女装者同士で共有するとともに、“日常”では気付かなかった自分の個性が「才能」として見出され、互いの個性を尊重し合う関係性が築かれていた。以上のことから、日常場面において男性の女装が認められていないからこそパートタイム女装者は「緊張感」が強く意識されると同時に、「密かな楽しみ」という私秘性を女装行為に求めていると考察された。